

丸山湿原群保全の会会報

(第 129 号)

発行日：平成 30 年 4 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

新年度が始まり約半月がたちました。新しい職場や人の入れ替えなど、環境の変化は人にも自然にも様々な影響を及ぼすのではないのでしょうか。新発見があったり、逆に環境に対応できず調子を崩したり。適応力が問われます。ご自愛ください。

丸山湿原も昨年末、歩道柵の更新と第 1 湿原視点場を延長するような観察台ができました。大きな環境変化とも言えるでしょう。これをどう使うかは人のモラルにかかっています。いい環境変化であることを願います。

(今住 4 月 16 日作成)

歩道柵・観察台

★年度末ぎりぎりに完成しました。

約 10 年間にわたって使われてきた木柵ですが、地中微生物の威力には



カジュアルなロープ柵



第 1 湿原に突き出た観察台



第 1 湿原観察台には後日柵がつけました

耐えきれず、あちこちで朽ち果てて折れたりグラグラしたりしていました。更新計画が出て約 2 年。阪神北県民局のご尽力により、簡易でも効果抜群の柵が完成しました。低い立杭に 1.5~2 cm 径ほどのロープを渡したものです。最初どうでしょう(役に立つ?)とと思っていましたが、結構圧迫感がなくいい感じに仕上がっています。

ロープが真新しくよく目立つためか、侵入の抑止力もあるように感じました。ただ、またぐとすぐ侵入は可能。性善説に立った設計です。(お金が無いだけでも…)最近では珍しい。このごろは、とにかく嚴重に防ぐことに主眼が置かれますから。

第 1 湿原視点場から続く観察台、これも来られた方が間近に湿原性植物を観察できるように配慮されたものです。ミミカキグサ類やモウセンゴケ、サギソウも？手に取れる位置にあるかも。今年度は、観察台付近が工事で少々荒れたので見られるかは？しかし適度な攪乱(環境変化)にもつながっているに違いありませんので期待は膨らみます。新しい観察台ご利用を！盗掘はご法度です！



第 3 湿原は柵なし



第 4 湿原にはロープ柵設置

環境パネル展 ★3月16日（金）～20日（火）

環境都市宝塚推進市民会議 環境パネル展（逆瀬川アピア1 2F ホール）



パネル展 いつものセット



「てくてく」の伊シガメ展示



ウンキュウと認定された「カメ太」
見たことはないですが…いないのかな？水深がないからな。アカミミガメが出ると大変！川下川にはうようよいます。油断は禁物です。

ちょっと名前が長いので間違っているかもしれません。ごめんなさい。毎年行われているようで逆瀬川の2F ホールでの展示です。展示内容は武庫川流域圏ネットワークや人博などと同じで、何か申マンネリな気がしますでしたがやってきました。

今までの展示より不特定の方に見ただけなのはありがたいと思いましたが。宝塚市も頑張っておられます。感謝です。

展示ついでに付近を見回すと、いつものメンバーに加え地域新聞の「てくてく」さんの展示も。内容は「伊シガメ」。「てくてく」の新聞記事を読まれた方も多いたと思いますが、伊シガメの特集記事の方が担当されていました。神戸市立須磨海浜水族園でボランティアスタッフをされているそうです。

伊シガメは現在、環境省準絶滅危惧種。中国で縁起がいい（食用？）などの理由で大量に捕獲輸出もされているそうです。2013年にワシントン条約附属書Ⅱに掲載。うちの家でも伊シガメを近くから捕獲し飼育しています。名前は「カメ太」。20年近くたつのですがウンキュウ疑惑が浮上していました。

ウンキュウとはクサガメと伊シガメの交雑種。数は非常に少なく、環境が整わないとめったにできないとお話でした。そこで撤収の日にかメ太の写真を持って会場に。片付けが終わりその後写真をお見せすると、あっさり「ウンキュウですね」。え～？信じたくなかったが、背中中の3本のキール（出っ張った筋）が全てを物語っていました。クサガメは江戸時代に日本に入ってきたもの。名前の通り臭い！「カメ太」は伊シガメの特性を多く持ち臭くもないし、ぱっと見は伊シガメ。しかし、その日以来「カメ太」はウンキュウと呼ばれるようになりましたとさ。個人的な話ですいません。

昨年田んぼで見つけた子ガメもウンキュウぽかったし、西谷にはウンキュウが増えているのかも？それは伊シガメの減少を意味しているのでしょうか。水がきれいでない生きていけないカメです。この問題は結構深刻かもしれません。しかもカメ類は貯精するとか。何度も生み続ける？

昔は夜店で銭亀釣りとして登場。それがいつの間にかアカミミガメ（ミドリガメ）（緊急対策外来種）釣りに変わり現在は？？？です。丸山湿原にはカメの記載はありません。確かに

※パネル展での交流も勉強になります。ご協力できる方よろしくお願いします。

活動報告 ★3月25日（日）定期活動 4名で活動

又マガヤ刈り、運び出し作業 ライン撤去

年度末で忙しい中4名で活動。今回もお手伝いに里大OBの方が来てくださいました。残っている第4湿原上部の又マガヤ刈りと、両生類調査で使ったラインセンサスのロープ取り外し作業です。昨年までロープは年中設置していたのですが、劣化したり保全作業の邪魔になるということで外すこととしました。見栄えもよくなかったし…



ラインセンサスロープ回収



まず第3湿原、それから第1湿原のロープ。その後第4湿原の又マガヤ刈りです。1日仕事を覚悟しましたが、結構効率よく進み12:30頃にはほぼ終了しました。刈り払い機3台での作業。時期的には少し遅すぎた感がありますが、次年度（今年度）の課題としておきます。

何とか又マガヤを抑えたいところですが、また夏には「又マガヤヶ原」になるのでしょうか。

刈り取り、運び出しも含めごころうさまでした。

昨年度最後の又マガヤ刈り モウセンゴケも新芽を出し日光を喜んでいるようでした。ホンマかいな？



刈り取られた第4湿原上部

定期活動 ★4月14日（土）定期活動 6名で活動 晴
定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	15	17
ハイキング	10	5
その他	2	0

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
入口	10:10	19.9℃		
視点場	11:00	26.9℃		
第3湿原	10:34	【18.2℃】	32.0 μS/cm	6.2
第1湿原	11:10	【21.0℃】	28.6 μS/cm	6.6
第2湿原	11:46	【17.8℃】	35.9 μS/cm	6.8

来場者数 計 50 人
(竹筒ポスト人数)

【湿原・活動の様子】

新年度最初の活動です。何も変わりはありませんが、あの冬の寒さは何だったのかと思うような陽気が続く日々。確かに春ですが、一気に季節が進み本来順番に咲く花が同時に咲いています。しかも今年は早いような。桜（ソメイヨシノ）の開花宣言も過去最速という報道があちこちから届いていました。西谷（丸山湿原周辺）は都市部に比べやはり気温が低く、ヤマザクラがまだ多く咲いています。コバノミツバツツジは満開から少し過ぎたあたりか。林縁（藪中も）をピンクに染め、陽光に映えていました。芽吹きの状態です。緑というより銀色に輝く緑？という感じです。



芽吹き出した第3湿原とコバノミツバツツジ
新緑とまではいかず、まさに

新しい柵と観察台を初めて見る会員もいて、この高さで大丈夫とか、なかなかいい感じ、とか様々な意見が出ていました。



ツボスミレ



スミレ



アメリカスミレサイシン
園芸種（逸出）

まず駐車場周辺で観察できるスミレ。白いツボスミレ、スミレ、アメリカスミレサイシンを観察。イノシシの掘り返した歩道を進み、竹筒ポストへ。石を数えようと竹を外すと今年もまた小さな卵が。昨年5月にシジュウカラの巣（苔で作られた）と卵があり、ほぼ毎年の産卵か？しか

し、今年は巢らしい巢（苔など）はなく裸で産み付けられていました。しかも3個。石とともに出しますので当然割れました。なぜ巢作らずの卵なのでしょう？ご存知の方はご連絡を。若い個体で巢を作れなかった？野鳥の種も特定できてないのにわかりませんよね。

その時ギフチョウが猛スピードで飛びすぎました。（写真撮れず）カウンターの後、コバノミツバツツジのわきを抜けながら湿原へ。カジュアルな柵と開放的な観察台を体感。観察台は湿原の中にあるような感覚です。そこからアーチを作って向こう岸まで作ったらどう？などと、その場限りの無責任なやり取り。（言ってるだけですよ！）



竹筒ポストから出た卵

湿原は表面が茶色から緑色に変化し、新芽が多く見られました。又マガヤとの競争ですね。今年のトキソウやサギソウがどのようになるのか注目です。



ニガイチゴの花

今回は第4 湿原奥から鉄塔経由で第2 湿原へ。途中の沢からは「ゴゴツゴゴ」とテノールのように響くタゴガエルの鳴き声が響いていました。アカガエルの仲間ですが産卵は4月～5月。細流の石や岩の下で産卵します。卵を見つけるのは困難ですが、タゴガエルはよく見かけます。ただ、産卵期のタゴガエルは水にふやけるのかブヨブヨの体です。鳴き声を頼りに探してみるのも面白いですよ。



ウサギの糞（丸形）



サルトリイバラの花

道に戻ります。ニガイチゴの白い花やリョウブ（令法）の新芽。サルトリイバラ（山帰来）の花など食べられる木々の出迎えを受けながら第2 湿原の測定場所へ。丸山湿原には珍しいイトトンボが。ホソミオツネトンボ（細身越冬蜻蛉）です。オツネンの名の通りあの厳冬をやり過ごしたトンボです。調べてみるとこのトンボは丸山湿原未記載種。止水性のトンボですが、湿地のような場所を好むようです。しかし環境的には住みにくいと思われます。または、湿原の環境が変化してきている兆候とも考えられます。注意深く見守る必要あり。シオヤトンボも多く羽化していました。これは例年通り。あとは、シカとウサギの糞が。シカの糞はそれほどたくさんありませんので、被害は今のところ限定的と思われる。



シカの糞（俵型）

新兵器

デジタルの湿度・気温計を購入しました。手軽で短時間で測定できます。ご活用を。

総会予告

日時：2018年6月9日(土)13:00～（午前活後）

場所：自然休養村センター2階（予定）

別途議題等については5月中に送付いたします。

ガイド研修予定

新年度議題にはなりますが、本年度のガイド研修を計画しています。

日時 2018年7月28日(土)・・・後日案内予定

場所 岡山県自然環境センター（バス利用を予定）

岡山県和気郡和気町(わけちょう)田賀 730 (旧町名は佐伯町(さえきちょう))

次回活動日 4月22日(日) 歩道ササ刈り 5月12日(土) 定期調査

5月27日(日) 歩道付近ササ刈り 6月9日(土) 定期調査・総会



デジタル湿度・温度計



(参考) ホソミオツネトンボ



シオヤトンボ(テネラル)